



## 釧新郷土芸術賞に輝く

受賞者の横顔 ④

河崎 秋子さん(41)＝帯広市

文学

河崎

昨年未、作家の仕事に専念するため羊飼いと兼業をやめ、高校時代を過ごした帯広に移り住んだ。現在は主に午前中は資料の読み込みなどを行い、午後から執筆という生活。以前は午前2時ごろまで執筆して3時間後に起床という日もあり「十何年分の睡眠負債を返しているよう」と笑

う。

1979年別海町生まれ。別海中央小、同中から帯広大谷高校、北海学園大学に進学。実家で酪農業のかたわら執筆活動にいそしみ、2014年に「颯風の王」で三浦綾子文学賞を受賞。異色の経歴のほか、馬と一緒に雪洞に閉じ込められた女性が壮絶な体験を経て生き延び、家族たちに命が受け継がれていく物語も評判を呼んだ。19年には「肉弾」で大藪春彦賞、20年「土に贖う」で新田次郎文学賞

を受賞した。

10月には単行本4冊目となる最新刊「鳩護」が刊行。東京の女性会社員の日常が鳩との出会いを機に変わっていく物語。北海道を舞台としてきた過去作とは異なる作風への挑戦だったが「可能性を広げるためにも必要なこと」とする。今後「物書きとして出し切れるものはすべてやっていけるよう、いろいろと自分の書けるものを探していきたい」と意欲を燃やしている。

(片山新平)

# 異なる作風への挑戦も